



遷宮二二〇〇年に向けて

武田八幡宮の本殿、修復し装いを新たに

武田の里 にらさきを象徴する武田八幡宮。その境内の奥に鎮座するのが、国の重要文化財に指定されている本殿です。その姿は、武田家の氏神らしい雄大な存在感を放っていて、全国各地から多くの参拝者が訪れています。

弘仁13年（822年）に勅命によって、九州の宇佐八幡宮を勧請したことから始まります。甲斐源氏からの信仰も厚く甲斐武田家の初代当主武



▲本殿修理の起工式

田信義が元服をして以来、武田家の氏神としてその歴史を見守り続けてきた神社です。本殿の特徴は、3つの扉があり、大きな屋根が正面へ流れるように延びている三間社流造りという建築様式です。

現在の姿は、武田信玄の時代のものであると伝わっています。

その武田八幡宮の本殿の修理が約40年ぶりに行われます。専門技術を持つ職人たちによる檜皮の屋根を葺き替える修理です。

檜皮葺は、日本古来の伝統的な屋根で、出雲大社や北野天満宮、山梨県では、北口本宮富士浅間神社本殿といった日本を代表する神社で見られる技法です。武田八幡宮の本殿も同じ技法であり、日本古来の伝統美を受け継いだ神社であるといえます。

本殿修理の歴史は、武田信



▲武田八幡宮の本殿

玄が、天文10年（1541年）に行ったという記録が最も古く、武田氏が滅亡したのちも、徳川家康の重臣である平岩親吉が修理を行っています。また、甲府藩主の柳沢吉保が、神社の修理に関わっていることも確認されています。

このことから武田八幡宮の修理は、歴史上の人物たちが関わる一大事業であったといえます。この歴史的事業が、平成という時代が終わり、令和の時代が始まった記念すべき年に始まりました。

2022年に遷宮1200年を迎えようとしている武田八幡宮は、長い歴史の中で継承されてきた日本の伝統的な技術によって修復されつつあります。

本殿は現在、仮設屋根に包まれていて、見ることは出来ませんが、仮設屋根が外れた時、再び日本の伝統的な美しさで武田家の氏神らしい雄大な姿を目にすることが出来ます。

5月11日には、本殿修理の見学会の開催が決まりました。普段は、遠目からしか見ることのできない本殿をこの日のみ間近で見ることが出来ます。また、本殿を見学しながら、今回は特別に修理している職人の方が、修理の方法や技法等の解説をしてくださいます。日本の伝統技術をより一層深く知ることが出来る数少ない機会です。

なお見学会は、2回行いますが、安全管理上1回につき15名様限定の見学会となります。

武田の里を象徴する文化財を共に後世まで継承していきましょう。

（文化財担当 半澤直史）

中央公民館・武田八幡宮共催イベント

武田八幡宮の

本殿修理工事

現地見学会開催決定!!

■日時

5月11日（土）

第1回 9時50分集合

第2回 11時20分集合

※見学時間は、約1時間

■集合場所

武田八幡宮社務所広場

■参加費 無料

■定員 各説明会先着15名

■受付・整理券配布場所

韮崎市教育委員会

※電話受付は行いません。

■申込受付期間

5月7日（火）～10日（金）

■その他

・見学会には整理券が必要です。

・雨天の場合は中止



■問い合わせ

教育課文化財担当

（内線271）